

「絵本」で新聞のススめ

大学生に、もっと新聞を読んでもらいたい。そんな思いから、新聞の読み方や活用方法をまとめた本「新聞学習の基礎知識」が今春、完成した。絵本仕立てにして親しみやすさを表現。執筆した愛知教育大(愛知県刈谷市)の富山祥瑞教授は「新聞を読んでない学生が、新聞を身近に感じるきっかけになれば」と期待する。



読み方、活用法まとめ

ページを一枚めくると、左には文章、右には大きなイラストや図。本は全十一章で構成され、新聞に関する基本的な情報が盛り込まれている。右ページには新聞の一面をそのまま

愛知教育大・富山教授が執筆



富山祥瑞教授が手がけた絵本仕立ての本「新聞学習の基礎知識」＝愛知県刈谷市の愛知教育大で

まれている。例えば第一章。二面は新聞の「顔」と題し、左ページには政治面や社会面などさまざまな紙面があることを説明した。右ページには新聞の一面をそのまま掲載。題字や見出し、トップ記事などがどんな意味を持つのか、具体的に書いてある。出版のきっかけは、学生の新聞離れだった。愛知教育大では、二〇〇六年から中日新聞と連携してNIEの講座を開いている。富山教授も開講当時から

生きた教材で問題解決力を

授業を持つが、学生と話すとき新聞を読んでいないと感じることが増えた。学校現場では、新聞は生きた教材とも言える。富山教授は「新聞を活用した学習では着眼力や取材力、情報を読み解く力などが得られる。これは生活していく上で必要な問題解決力そのもの」と話す。



同大では、多くの学生が就職に就く。大学のNIE講座では、学校でNIEの推進役を担う教師の養成を目指している。しかし、新聞を読まない学生が、教師になって急に読むようになるのは考えにくい。そこで、今回の本の出版を企画した。

執筆は、静岡県浜松市船越小学校の山崎章成教諭、中日新聞写真部の柳田大慈記者も担当した。「授業の進み具合と違うので、新聞はいざという時に使えない」という学校現場の声に対し、山崎教諭は本の中で「野球選手の打率を算数に應用したり、心温まる話題を道徳に用いたり」と、工夫次第でさまざまな展開が可能」とアドバイス。カメラマンの柳田記者は「三歩前に出て撮る」という撮影のポイント、プライバシーや肖像権の問題などを説明している。

本は二十四ページ、A4判変型。千九百円。イラストは、同大卒業生の細井英雄さん。問い合わせは、愛知教育大生協。電話0566(36)2404へ。

教育に新聞を